

資料から情報を効果的に調べまとめる 技能を育む授業の実践

— 歴史的な見方・考え方を働かせた資料の読み取りと多面的・多角的な考察に着目して —

相原 慶二¹

中学校学習指導要領(平成29年告示)によると、社会科では諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにすることが求められている。本研究では、歴史的な見方・考え方を働かせた資料の読み取りと多面的・多角的な考察に着目して、資料から読み取った情報を周囲の人と共有し、気づきを得ることで、情報を効果的に調べまとめる技能が育まれたかどうかを検証した。

はじめに

OECD生徒の学習到達度調査(PISA)によると、近年読解力の低下が指摘されている。特に、2018年調査では、2009年調査結果と比較して、「情報を探し出す」能力や「評価し、熟考する」能力の平均得点が低下している。また、2018年調査の「読解力の調査結果の分析」には、「読解力の自由記述形式の問題において(中略)自分の考えを他者に伝わるように記述できず、問題文からの語句の引用のみで説明が不十分な解答となるなどの傾向が見られる。」(国立教育政策研究所2019)と示されている。

所属校では、授業の様子やテストの結果から、生徒が資料を適切に読み取ったり、読み取った内容を文章にまとめたりすることに課題があると考えている。

本研究は、生徒が資料から情報を効果的に調べまとめる技能を育むために、「中学校学習指導要領(平成29年告示)」(文部科学省 2018)で求められている社会的な見方・考え方と多面的・多角的な考察に着目して研究を進めた。

地理的分野や公民的分野と比べ、歴史的分野では様々な解釈ができる資料が多く、生徒の多様な意見を引き出しやすいと考えた。そのため、歴史的分野の学習において、歴史的な見方・考え方を働かせて資料を読み取ったり、多面的・多角的な考察を取り入れたりすることで資料から情報を効果的に調べまとめる技能を育むことについて検証を行った。

研究の目的

本研究では、歴史的な見方・考え方を働かせた資料の読み取りと多面的・多角的な考察に着目して、資料

から情報を効果的に調べまとめる技能の育成を図ることを目的とする。

研究の内容

1 「効果的に調べまとめる」の定義

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』(以下、『解説』という)の歴史的分野(1)目標には、「情報を効果的に調べまとめる技能とは、(中略)情報を収集する技能、収集した情報を社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて読み取る技能、読み取った情報を課題の解決に向けてまとめる技能を意味している。(中略)資料を選択して有効に活用することで、社会的事象を一面的に捉えるのではなく、様々な角度から捉えることが可能となる。」(文部科学省 2018 p.84)とある。

このことから、本研究において「効果的に調べまとめる」とは、諸資料から様々な情報を「選択する」「読み取る」「まとめる」ことと定義する。

2 研究の柱

(1) 歴史的な見方・考え方を働かせた資料の読み取り

『解説』によると、歴史的な見方・考え方とは「『社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること』」(文部科学省 2018 p.83)としている。

第1表 考えられる追究の視点例(ローマ数字は筆者)

I 年代の基本に関わる視点
時期、年代、時代区分など
II 諸事象の推移や変化に関わる視点
変化、発展、時代の転換など
III 諸事象の特色に関わる視点
相違、共通性、時代の特色など
IV 事象相互の関連に関わる視点
背景、原因、結果、影響など

1 秦野市立本町中学校
研究分野(授業改善推進研究 社会)

「社会的な見方・考え方(追究の視点や方法)の例」(文部科学省 2016)の歴史的分野に、考えられる追究の視点例(以下、「視点」という)が第1表のように示されている。これらの「視点」を基に、資料の読み取りやまとめができるように工夫したワークシートを作成して検証授業を行った。

(2) 多面的・多角的な考察

『解説』では、「多面的・多角的に考察…する力については、社会的事象個々の仕組みや働きを把握することにとどまらず、(中略)、様々な側面、角度から捉えることのできる力を示している。このうちの『多面的・多角的に考察』するとは、学習対象としている社会的事象自体が様々な側面をもつ『多面性』と、社会的事象を様々な角度から捉える『多角性』とを踏まえて考察することを意味している。」(文部科学省 2018 p.26)とある。

これを踏まえて本研究では、ワークシートを班の生徒同士で回覧して、意見の交換や共有をしたり、任意の立場を選んで、別の角度から考察したりすることによって多面的・多角的に考えたりすることで、さらに学習を深めていくことができると考えた。

3 研究仮説

前述のことから、本研究の仮説は次のとおりである。

歴史的な見方・考え方を働かせて資料から情報を読み取り、生徒同士でお互いの気付きを共有し、多面的・多角的に考察することで、資料を効果的に調べまとめる技能を育むことができるようになる。

4 検証方法

次の3点により仮説の妥当性を検証した。

(1) 資料読み取りテスト(事前・事後)

教科書の資料を基に歴史的事象を正しく説明している文を選ぶ問題や、資料からどのような情報が読み取れるかを選択肢から選ぶ問題などを作成した(第1図)。

1 A~Fの資料を読み取り、正しい内容を表しているものを次の<説明文>1~5から2つ選び、番号で教えてください。

<説明文>

- 1、人類はアフリカで生まれ、猿人→原人→旧人→新人の順に進化し、アメリカ大陸以外の各地に広まった。
- 2、氷期の頃は、現在の中国や朝鮮半島は日本と地続きであり、オオツノジカなどの動物は中国や朝鮮半島と日本(北海道を除く)を行き来していたと考えられる。
- 3、人類は原人に進化すると石を打ち欠いて作った道具(打製石器)を使い始め、木をけずったり、土を掘ったり、ナイフとしてものを切ったりするのに使った。
- 4、猿人は生活する上で道具を全く用いなかった。
- 5、猿人は打製石器を使用したか、言葉や火を用いることはできなかった。

第1図 資料読み取りテストの問題(一部抜粋)

事前テストは検証授業開始の約1か月前、事後テストは検証授業最終日に実施した。実施時間は15分間で、

10問10点満点で実施し、事前テストと事後テストの結果から、資料を読み取る技能の変化を調査した。

なお、事後テストを事前テストと同一の問題で実施したため、事前テスト後に答え合わせは行っていない。

(2) アンケート(事前・事後)

検証授業を実施した2学級の生徒を対象にアンケートを実施し、資料を選択したり、読み取ったり、読み取った情報をまとめたりすることについての意識の変容を見取った(第2表)。

第2表 事前・事後アンケート項目(一部抜粋)

質問項目 < >内は事後
①あなたは、文章や資料から必要な情報を選ぶことに自信がある<自信が付いた>。
②あなたは、文章や資料から必要な情報を読み取ることに自信がある<自信が付いた>。
③あなたは、文章や資料から必要な情報を文章にまとめることに自信がある<自信が付いた>。
<④自分が当事者の立場に立って考えることで、実感をもって書きやすくなった。>

なお、事前アンケートと事後アンケートでは項目が異なっており、事後アンケートは、検証授業を受けて意識がどのように変容したかを問う項目を追加した。

(3) ワークシート

生徒が、歴史的な見方・考え方を働かせて資料から情報を読み取ったり、多面的・多角的に考察したりすることで、資料を効果的に調べまとめることができるように、第1表の「視点」に基づいて、それらの「視点」を選んで読み取りができるように工夫した。後半は、読み取った情報を基に「本時の問い」についてまとめる構成とした。

5 検証授業

(1) 検証授業の概要

- 実施期間 令和2年10月6日(火)~10月20日(火)
- 対象生徒 所属校第2学年2学級(A組、B組とする。)、各40名
- 分野 歴史的分野
- 単元 江戸幕府の成立と進展
- 授業時数 7時間

(2) 問いの設定及び各時間の授業内容

検証授業を行う際には、「単元を貫く問い」と「本時の問い」を設定し、ワークシート1~5を活用して授業を進めた(第3表)。また、ワークシートを用いた生徒の学習活動の流れを示したものが第4表及び第5表である。いずれの活動においても、第1表の「視点」を意識しながら取り組むように指導した。

第3表 「単元を貫く問い」と「本時の問い」

「単元を貫く問い」	
なぜ江戸幕府は、長い間政治の権力を保てたのだろうか？	
時間	上段：小単元名 下段：「本時の問い」
第1時、第2時	江戸幕府の成立と大名統制
ワークシート1	江戸幕府はどのように全国の大名を支配したのだろうか？
第3時	身分制度の確立と農村のようす
ワークシート2	江戸幕府はどのように民衆を支配したのだろうか？
第4時、第5時	貿易奨励から鎖国へ
ワークシート3	江戸幕府の外交・貿易政策はどのように変化していったのだろうか？
第6時	外国や周辺地域との関係
ワークシート4	江戸時代の日本は、外国や周辺の地域とどのような交流をしていたのだろうか？
第7時	(「単元を貫く問い」のまとめ、事後テスト、事後アンケートの実施)
ワークシート5	(なぜ江戸幕府は、長い間政治の権力を保てたのだろうか？)

第4表 ワークシート1、3の学習活動の流れ

活動の手順	生徒の学習活動	指導上の留意点
1	本時の問いに答えるための資料を選択する。	歴史的な見方・考え方を基にするように適宜声を掛ける
2	選択した資料のそれぞれから分かる情報を読み取る。	
3	書き出した文同士を組み合わせさせた文を作る。	
4	ワークシートを班の生徒同士で回覧し、共有する。	
5	4で得た気付きを基に、3で作った文を改良する。	
6	5で作った文を基に本時の問いに答え、まとめる。	
7	本時の問いについて、任意の立場を選び、多面的・多角的に考察して追究する。	

第5表 ワークシート2、4の学習活動の流れ

活動の手順	生徒の学習活動	指導上の留意点
8	提示された四つの資料のそれぞれから読み取れること、読み取った情報がどの「視点」にあてはまるかを選ぶ。	歴史的な見方・考え方を基にするように適宜声を掛ける
9	8で作った文を基に本時の問いに答え、まとめる。	

第1時では、「単元を貫く問い」を提示し、毎時間の授業でこの問いを意識しながら授業に取り組むことを確認した。その後、「本時の問い」を示し、本時の学習内容に関係する資料と、本時の学習に関係しないものを合わせて八つ、教科書から抜粋して提示した。生徒は提示された資料から、本時の問いに答えるため

に必要なものを選択し、読み取った情報をワークシートに記入した(第2図及び第3図)。その後、読み取った情報を組み合わせることで、「本時の問い」に関わる歴史的な事象(幕府の政策の内容やそれによる社会の変化の様子等)を説明する文を作った(第4図)。

B	④ 大名たちの領地を没収している。
	⑤
	⑥

第2図 資料から読み取った情報の記述例1 (アルファベットは選択した資料の記号)

G	⑬ 毎年四月に大名は江戸に参勤する。
	⑭
	⑮

第3図 資料から読み取った情報の記述例2 (アルファベットは選択した資料の記号)

組み合わせのために選択した資料番号 ①-⑮	組み合わせさせた文	視点の記号
④⑬	毎年四月に江戸に参勤させて、守りながら、た大名は持っている領地を没収などの処分を与えている。	IV

第4図 資料から読み取った情報を組み合わせさせた記述例

第2時では、第1時で記入したワークシートを班の生徒同士で回覧、共有し、そこで得た気付きを基に、各自が作った文を改良した。さらに、それを基に「本時の問い」に対する自分なりの答えを文章でまとめ、発表した。最後に、幕府・大名・その他(民衆等)の中から任意の立場を選び、幕府の大名統制に対して感じることをそれぞれの立場から想像して書くことで、多面的・多角的な考察を行った。

第3時では、第1時、第2時において、生徒から「『視点』を意識した読み取りが難しい」という意見が出たことを踏まえて、ワークシートの形式を変えて「視点」を意識した読み取りに焦点を当てた。四つの資料を提示し、それらから読み取ったことがそれぞれの「視点」に当てはまるかを繰り返し考えさせた。資料数を減らし、選択する過程を省略することで、「視点」を意識した読み取りを重点的に行えるようにした。(第5図)

視点の記号 (I~IV)	資料D
選んだ視点について読み取れること	
I	寛永20(1643)年末3月にできた。
IV	寛永のころに農民が土地を売って没収するのを防ごうとしていた。

第5図 「視点」を意識した読み取りに焦点を当てたワークシートの記述例

第4時、第5時は、第3時の学習を踏まえて、生徒が「視点」を意識した読み取りを行うことができるようになってきたため、授業の流れ及びワークシートの構成を第1時、第2時と同じに戻し、複数の資料から生徒が自ら選択して情報をまとめるようにした。

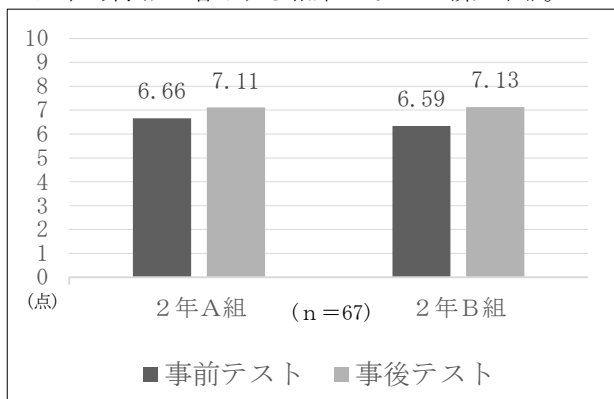
第6時では、これまでの取組をいかして、1時間で資料を読み取って、本時の問いについてまとめる授業展開とした。

第7時では、それまでの授業で使用した4枚のワークシートを参考にして、「単元を貫く問い」についての自分の考えをワークシートにまとめる活動を行った。

6 検証結果

(1) 資料読み取りテスト(事前・事後)

資料読み取りテストは、どちらの学級も事後テストでは平均得点が増加する結果となった(第6図)。



第6図 資料読み取りテスト(事前・事後)の結果

また、生徒一人ひとりのテスト結果の変化を分析すると、事後テストでは32人(47.8%)の生徒に得点の増加が見られることが分かった(第6表)。

第6表 事後テストにおける得点の増減幅

増減	n=67人
+5点	1人(1.5%)
+4点	2人(3.0%)
+3点	3人(4.5%)
+2点	6人(9.0%)
+1点	20人(29.9%)
0点	22人(32.8%)
-1点	8人(11.9%)
-2点	3人(4.5%)
-3点	1人(1.5%)
-4点	1人(1.5%)
小数第2位を四捨五入したため、100%にならない。	

(2) アンケート(事前・事後)

事前・事後アンケート結果によると、項目①～③のいずれの質問も、事前に比べ肯定的回答(「とてもそう思う」、「そう思う」)の数が大幅に増加した(第7表)。

また、事後アンケート項目④でも、9割以上の生徒が肯定的回答をしている。

第7表 事前・事後アンケート結果

質問項目 < >内は事後	肯定的回答	
	事前 (n=71)	事後 (n=70)
①あなたは、文章や資料から必要な情報を選ぶことに自信がある<自信が付いた>。	37 (52.1%)	61 (87.1%)
②あなたは、文章や資料から必要な情報を読み取ることに自信がある<自信が付いた>。	30 (42.3%)	60 (85.7%)
③あなたは、文章や資料から必要な情報を文章にまとめることに自信がある<自信が付いた>。	17 (23.9%)	56 (80%)
<④自分が当事者の立場に立って考えることで、実感を持って書きやすくなった。>		65 (92.9%)

(3) ワークシート

検証授業を行った2学級のワークシートを分析した。ワークシート1に比べ、ワークシート3で「視点」を踏まえた記述が増えた人数は70人中61人(87%)となった。また、ワークシート1とワークシート3のそれぞれで記述された「視点」を分析したところ、第8表のようになった。

ワークシート1では「視点」IVについての記述が多かったが、ワークシート3では「視点」IVに加え、「視点」I～IIIについての記述が増えた。

「視点」Iの記述例として、年表やグラフから年号、年代や時期を読み取った記述、「視点」IIでは、外交の変化やキリシタンの増加などに関する記述、「視点」IIIでは、日本からの退去を求められたスペインやポルトガルに対し、オランダとは関わりをもち続けているという違いについての記述が見られた。

第8表 「視点」を踏まえた記述の分析結果

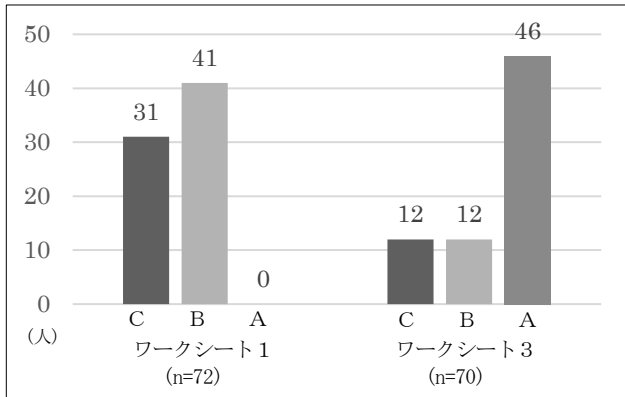
追究の視点や方法	ワークシート1 (n=72)	ワークシート3 (n=70)
I年代の基本に関わる視点	1 (1.4%)	39 (55.7%)
II諸事象の推移や変化に関わる視点	0	47 (67.1%)
III諸事象の特色に関わる視点	0	8 (11.4%)
IV事象相互の関連に関わる視点	62 (86.1%)	59 (84.3%)
無記入	6 (8.3%)	6 (8.6%)
I～IVにあてはまらない	3 (4.2%)	0

さらに、第9表のように、「視点」を基にA、B、Cの評価規準を設けて、ワークシート1とワークシート3の記述を評価したところ、第7図のような結果に

なった。

第9表 ワークシートの評価規準

A : 複数の資料から情報を読み取り、複数の「視点」を用いて適切にまとめている。
B : 複数の資料から情報を読み取り、「視点」を用いて適切にまとめている。
C : 「視点」を用いていない。または適切なまとめになっていない。



第7図 ワークシート1、3の評価別人数

第8表にあるように、より多くの「視点」を踏まえながら情報をまとめることができたため、ワークシート1ではA評価の生徒が0人だったが、ワークシート3ではA評価の生徒が46人と最も多くなった(第7図)。

また、事前アンケートで、資料の選択、読み取り、まとめに「自信がない」と答えた生徒Aのワークシート1とワークシート3の記述を比較すると、次のような変化が見られた(第10表)。

第10表 生徒Aのワークシート1、3の記述内容

<p>第1時、第2時(ワークシート1)</p> <p>江戸幕府はどのように全国の大名を支配したのだろうか?</p> <p><u>ア関ヶ原の戦いで幕府の力を見せつけ、信頼関係を築き、大名たちをまとめた。</u></p>
<p>第4時、第5時(ワークシート3)</p> <p>江戸幕府の外交・貿易政策はどのように変化していったのだろうか?</p> <p>a 日本は朱印船貿易をやっている、朱印状というものを使って貿易していたが、<u>イ朱印船の渡航数が年々減っている。</u></p> <p>b キリスト教で勝手に悪い考えを広めて、神仏の教えを惑わし日本を自分のものにしようとしたのでキリスト教禁止令を出した。</p> <p>c 鎖国令を守らなかった人はすぐ死刑や断罪なのでかなりきびしい。また<u>ウ1639年の鎖国令はポルトガル船の来航を禁止している、エオランダくらいしか日本に来れなくなった。</u></p>

第10表の下線部アでは、第1表の「視点」IV「事象相互の関連に関わる視点(背景、原因、結果、影響など)」

のうちの「背景、結果」を踏まえた記述しか見られないが、第3時で、「視点」に焦点を当てた読み取りを行った結果、第4時、第5時では記述が大きく変化していることが分かる。

下線部イは「視点」II「諸事象の推移や変化に関わる視点(変化、発展、時代の転換など)」のうちの「変化」、下線部ウは「視点」I「年代の基本に関わる視点(時期、年代、時代区分など)」のうちの「時期、年代」、下線部エは「視点」III「諸事象の特色に関わる視点(相違、共通性、時代の特色など)」のうちの「相違」の視点を踏まえた記述になっている。また、第10表のb、cの各文は、それぞれ「視点」IV「事象相互の関連に関わる視点(背景、原因、結果、影響)」のうちの「原因、結果」の視点で記述されている。

このように生徒Aは、ワークシートでは複数の「視点」を踏まえて適切にまとめることができるようになってきた。事前アンケートで、資料の選択、読み取り、まとめに「自信がない」と答えていたが、事後アンケートでは「自信を付けた」と答えた。

また、「自分の考えを説明したり、他の人の考えを取り入れたりすることで、自分の考えや授業内容の理解が深まる(深まった)」というアンケートでは事前では「そう思う」と答えていたが、事後では「とてもそう思う」に変容した。

これらのことから、生徒Aは、当初は自信がなかった資料の読み取りやまとめについて、班の生徒と意見の交換や共有を行ったことで授業内容の理解を深めていったと考えられる。

研究のまとめ

1 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

本研究では、第1表に示した歴史的な見方・考え方を働かせて資料を読み取ることができるように、ワークシートを工夫して授業を行った。各ワークシートに4つの「視点」を記載し、読み取りの根拠を意識できるようにした。ワークシート1、3では、第2図及び第3図のように、各資料から読み取ることができる情報を、一つにつき一つの枠に書き出す構成にした。これらの情報を組み合わせて文を作り、それらの文を基にして本時の問いについてまとめができるように授業を進めていった。また、ワークシート2、4では、「視点」を意識した読み取りに焦点を当てて、読み取ったことがそれぞれの「視点」に当てはまるかを繰り返し考えさせた結果、生徒自らが資料からより多くの情報を読み取ることができるようになり、資料読み取りテストやワークシートの記述内容の変化に成果が見られた。

以上のことから、歴史的な見方・考え方を働かせて

資料を読み取り、多面的・多角的な考察を行うことによって、資料から情報を効果的に調べまとめる技能を高めることができ、仮説の妥当性を検証できたと考える。今後は次の課題について考えていきたい。

(2) 研究の課題

成果が見られた一方で、本研究の課題は3点挙げられる。

1点目は、資料から情報を読み取る技能をさらに育成していくことである。事後テストでは得点が増加した生徒が32人(47.8%)いたが、得点が変わらなかった生徒が22人(32.8%)、下がった生徒が13人(19.4%)いたため、資料から情報を読み取る技能の十分な定着には課題があると考えられる。資料から情報を読み取る技能の育成にはさらなる工夫や研究が必要である。

2点目は、資料から情報を読み取ってまとめる技能を授業内容の理解につなげることである。検証授業では、資料から読み取った情報をまとめることで精一杯であった生徒が多くいた。また、「資料から読み取った内容をもとに文章にまとめることで授業内容の理解が深まる」という事後アンケート項目では、肯定的回答に5人の減少が見られた。

3点目は多面的・多角的な考察の追求である。班の生徒と、読み取った情報や、それを基に組み合わせて作った文について、意見の交換や共有をしたり、ワークシートを読み合ったりする活動はできたが、資料から情報を読み取ってまとめることにかなりの時間を要した。そのため、生徒が立場を選択した別の視点からの考察について意見交換をする時間を十分に確保できず、思考を深めていくことができなかった。

2 今後の展望(本研究の改善に向けて)

課題の1点目の改善に向けて、資料の読み取り方について、授業では第3時で読み取りのポイントを指導したが、適切に読み取るためには、どのような情報を読み取ればよいのかを考えさせるための手立てについて、さらに検討を続けていきたい。

課題の2点目の改善に向けて、生徒の理解を促すために資料を段階的に提示することが考えられる。「限られた時間で多くの資料を読み取ることが難しい」という意見があったため、一つ一つの資料を丁寧に読み取る時間を設け、生徒自身で考えて資料を選択し、読み取る技能を身に付けられる工夫をしていきたい。

課題の3点目の改善に向けて、様々な立場からの考察やそれを基にした意見の交換や共有を、毎時間ではなく、単元の終末など活動の場を絞って十分に時間を確保して行い、効果を高める工夫をしていく必要があると考える。

最後に、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、協働学習を十分に行うことができなかった。本来であれば、生徒が資料から読み取ったことを付箋

に書き出して、それらを班の人と話し合いながら「視点」ごとに分類された模造紙上に貼って、歴史的な見方・考え方を共有したり、気づきを得たりしたものを参考にしてまとめたりするといった実践も可能であった。今後は、情勢を見定めつつ、感染防止策を徹底しながら、このような取組も取り入れていきたい。

また、検証授業後の研究協議において、所属校職員から、情報を読み取ったりまとめたりする技能は、長期的な視野に立って育成する必要がある、という指摘があった。今回のような実践を中学校3年間で系統性で見通しを持って取り組んでいきたい。さらに、他の教科の情報を読み取ってまとめる活動と連携し、教科横断的な実践とすることも考えられる。来年度以降、本研究を補完してさらなる成果が出るようにしていきたい。

おわりに

本研究では、歴史的な見方・考え方と多面的・多角的な考察に着目して、情報を効果的に調べまとめる技能の育成を図った。

本研究が中学校社会科教員の一助となれば幸いである。

本研究を進めるに当たって、御協力いただいた秦野市立本町中学校の生徒と職員の皆様に深く感謝を申し上げる。

引用文献

- 国立教育政策研究所 2019 「OECD生徒の学習到達度調査2018年調査(PISA2018)のポイント」
https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2018/01_point.pdf (2021年1月12日取得)
- 文部科学省 2016 「教育課程部会 社会・地理歴史・公民 ワーキンググループ(第13回) 資料9」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/071/siryo/_icsFiles/afieldfile/2016/07/06/1371619_09.pdf (2021年1月12日取得)
- 文部科学省 2018 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』 東洋館出版社

参考文献

- 岡崎誠司 2013 『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』 風間書房
- 北俊夫 2011 『社会科学力をつくる“知識の構造図” — “何が本質か”が見えてくる教材研究のヒント —』 明治図書出版
- 北俊夫 2015 『“知識の構造図”を生かす問題解決的な授業づくり—社会科指導の見える化=発問・板書の事例研究—』 明治図書出版